

「5のち」と「くらし」と「シンホー」ジウム

福島から、「いのち」と「くらし」を、考える

福島県立博物館での成果報告展は、2019年度におこなった7つのプログラムの概要と参加者の声、編集した映像やプログラムの中で制作されたドローイングやフロッタージュ作品を展示。福島県全域を学びのフィールドと捉え、「いのち」と「くらし」をキーワードに、多様なテーマで行ってきたプログラムの一端をご紹介します。

展示公開した映像作品は、「動物と震災」「浪江・二本松のこれから・これまで」「小さな博物館がつなぐ大きな奥会津」「大熊町のDNA」の5つのオープンドイスキュション・スタディツアーのエッセンスを伝えるもの。「浪江・二本松のこれから・これまで」で講師を務めていただいた美術家の折元立身さんが、二本松市に避難している浪江町の方、二本松市の方などを描いたドローイング作品は交流の温かさを伝えてくれました。「大熊町のDNA」で美術家の岡部昌生さんに指導していただきながら参加者の方は大熊町のDNAをとどめようと擦りだしたフロッタージュの作品は、土地の記憶を記録する意味を問いかけました。

9年目の3月11日を迎えるにあたり、みなさんと「いのち」と「くらし」の大切さを考える成果報告展となりました。

会期… 2020年1月11日(土) ～ 3月15日(日)

会場… 福島県立博物館 エントランスホール



